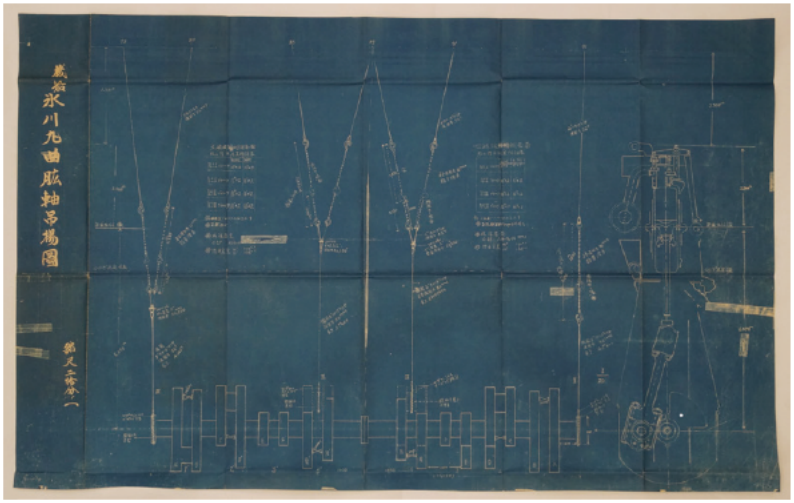
海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が
日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記を
めくるように積み重ねた歴史を紹介します

“機船 氷川丸曲肱軸吊揚図”



青図
機船 氷川丸曲肱軸吊揚図（1951年頃）
［国指定重要文化財氷川丸附指定］
当館所蔵

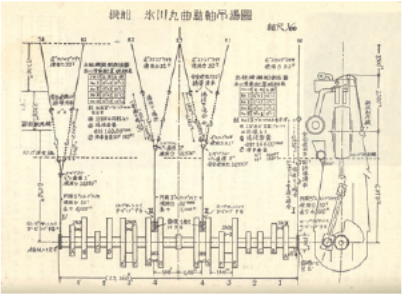
「氷川丸」
- 竣工：1930年4月
- 建造所：横浜船渠（株）
- 全長：163.30メートル
- 総トン数：11,622トン
- 速力：最高18.38ノット
- 主機関：B&W 複動4サイクル ディーゼル機関、5,500馬力×2基

「曲肱軸」とはディーゼル機関のクランクシャフト[※1]のことです。「氷川丸」は1951年3月28日から約60日間にわたり、両舷主機関のすり減った全主軸受メタル[※2]の取り替えによるクランクシャフト軸心の修正工事を東日本重工業横浜造船所（現、三菱重工業（株）横浜製作所）にて行いました。これは、主機関2基の上部構造物をすべて取り外して陸揚げし、重量90トンのクランクシャフトを、補強した機関室天井からチェーンブロックで吊り上げる大工事でした。

元々この青図には日付などの記載がなく詳細が不明でしたが、当時の「氷川丸」機関長・小岩重正氏による、この工事についての詳細な解説文（「氷川丸主機Crank Deflection 矯正に就て」『船用機関』郵船機関士会会誌、1952年、第12号）に同じ図が掲載されていたことから、右記工事の図面であることが判明しました。

この青図は、2016年に国の重要文化財に指定された「氷川丸」に関連する資料として附指定（つけざい）されたものの一部です。附資料は経年劣化などによる裂損、破損、折れ曲がり、変退色やクリップなどによる錆などが生じていました。そこで17～20年にかけて、「日本の美再発見！文化財美術工芸品魅力開花推進事業」、「神奈川県指定文化財保存修理事業」および「横浜市文化財保護事業」を合わせた資料の保存修理を、文化財の保存修理・保存活動を専門に行う（株）修護に委託して実施しました。その成果として、博物館に「特設展示コーナー」を定期的に設けたり、企画展「船と主機関」でも展示したりと、附資料のさまざまな図面を多くの方々にご覧いただいています。

※1 クランクシャフト：エンジンのピストンの上下運動をプロペラの回転運動に変換する軸
※2 主軸受メタル：クランクシャフトの回転運動を支える金属板



機船 氷川丸曲肱軸吊揚図
（小岩重正「氷川丸主機 Crank Deflection 矯正に就て」
『船用機関』、郵船機関士会会誌、1952年、第12号、p.4より）

NYK MARITIME MUSEUM
日本郵船歴史博物館

NYK GROUP

※2023年4月1日より日本郵船歴史博物館は休館しています